

平成18年度 第2回鎌ヶ谷市文化財審議会会議録

1. 開催日時 平成18年6月21日（水曜日）9時30分～16時30分
2. 開催場所 市内各所（市内の景観・里山視察調査）
3. 出席者
（1）委員：下津谷委員長・新山副委員長・桑原委員・小川委員・佐藤委員
（2）市側：松永課長・犬塚副主幹（文化係長）・三石主査・長沼主査補
4. 議題等
 1. 視察地概要説明：新山副委員長
 2. 景観及び里山視察調査（現地踏査）（資料1、2）：委員及び事務局
新山副委員長の説明で委員5名、事務局4名で視察調査を行った。
なお、市内における文化的景観・里山の定義については今回及び前回の調査結果を踏まえ、次回の審議会で協議を行うこととした。
5. 視察概要
議題1 市内文化的景観・里山について（現地調査）
 - ①西佐津間ふれあいの森
樹木については調査済み。元はクロマツ林であったのがシラカシ林に変わりつつある。シラカシ、ムクノキの二次林により構成されている。全体が落葉広葉樹林である。
（このふれあいの森は松戸市との市境に設置されているが、松戸市側の樹木は伐採されて宅地造成がされていた。）
 - ②佐津間日枝神社
コナラを中心とした落葉広葉樹林。ヒサカキ、クヌギ多い。市1、2の大きさのニガキがある。ヒサカキの多さが目立つ。
 - ③佐津間城の森
モウソウ竹が大きく育ってしまい、森を覆ってきている。
 - ④軽井沢遠山
クリーンセンターしらさぎ付近の斜面林にイカリソウが生育している（市内では希少）。
 - ⑤市民体育館（初富）
正面駐車場脇にシラカシ林が広がる
道路拡張により移植したサイカチが陸上競技場裏に生育している。
 - ⑥豊作稲荷（初富）
サカキ、ヒノキ、スギ、ケヤキなど勧請した当時（明治6年）の植生を保っている。
 - ⑦貝柄山公園（東中沢）
斜面林は斜面緑地保護により保たれている。マテバシイ、イヌシデ、シラカシが見られる。モウソウ竹が増えてきている。北向き斜面は本来の植物相を示すが、南向きの斜面は上方の宅地開発の影響か草が繁茂し、本来の林の姿を残していない。
 - ⑧三橋家の墓地周辺斜面林（中沢）
マツの二次林。イヌシデやコナラもなる。周辺には湧水が何か所か確認されている。
 - ⑨谷地川（中沢・新橋付近）
湿地帯でハンノキ林であったが工事等で切ってしまった。残っていた柳が繁茂していた。

⑩－1 手通公園（東道野辺）

⑩－2 東道野辺ふれあいの森

道路に面した部分は植樹によるものだが、全体的にクロマツ自然林の状態を良好に残している（昔のこの辺りの林の様子が残っている）。

⑪、⑫ 鎌ヶ谷5丁目（ふれあいの森・野々山宅付近）

ヒノキ林。植物調査の結果、市内でササクサが確認できるのはこの森だけであることがわかっている。日照等ササクサが繁茂できる条件が整っているためと考えられる。周囲に開発が及んでおり先行きこの土地の保持が難しいのではないかと。

⑬ 鎌ヶ谷八幡神社

時間的制約から省略

⑭ 鎌ヶ谷1丁目所在野馬土手

野馬土手上にイヌザクラがなっている。林の現況はマツが枯れてコブシ、ニガキ、コナラを中心に構成された二次林である。野馬土手は人手が加えられていない本来の植生状態をよく残している。

⑮－1 東鎌ヶ谷ふれあいの森

水辺付近まで森が広がっている（残されている）のが良い。イヌザンショウが繁茂している。

⑮－2 東鎌ヶ谷2丁目ふれあいの森

ニワトコ、マユミなどが見られる。詳細な植生調査はこれからだが、興味深い植生を示している森である。

次回文化的景観・里山について協議をすることを確認し終了

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証するため、次に署名する。

平成18年6月26日

署名人 下津谷 達男